**5月13日　インターンシップガイダンス　NPO法人ETIC.　内野　博礼　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

無知というのは怖いものだと思いました。私自身が住む日本の問題、今日聞いたものだけでも知らないことが多く、かつそれを調べようとも思ってなかった自分が恥ずかしく感じました。私は横国に入るまでインターンという言葉は何となく知っていたぐらいでかなり多くの学生が高いモチベーションでインターンに向かっていることも、その受け入れ先がただの人数確保ではなく、かなりの即戦力と評価していることも知りませんでした。今この授業を聞くことで私たち大学生はもっともっと秘められた大きな力を持っているかもしれないと感じています。どんな方向にせよ、もっと私自身を信じて「私にしか出来ないこと」にエネルギーを注いでいこうと思います。（教育人間科学部　間文化学科　１年）

私は将来父の経営する会社を継いで、町を活性化するビジネスを展開していきたいと思っており、高校時代には大学入学後にはビジネススクールに通ったり、インターンシップや起業家を目指す学生向けのイベントに参加したいと思っていました。しかし、大学生活が忙しく、今のところは具体的なアクションが取れていません。ところが、今日内野先生の、「大学時代に夢を描き、これからのことを真剣に考え、大学時代に突っ走る！」という言葉を聞いて、私も積極的に夢の実現をめざし、行動していきたいと感じました。また、ETICインターンシップでは、学生は期間限定の正社員として扱われ、正社員を超える売り上げを出すこともある、ということを聞いて、ETICのインターンシップはとてもやりがいがあり、いい経験になりそうだなと思いました。社会起業家の中で白木夏子さんが特に気になっていたので、本を読んでみたいと思います。また、120％理論の、相手の期待を20％超えるような付加価値を付けた仕事をする、というお話は、バイトや授業にも通じるし、社会人になってからでも必要なことと思ったので、今から心がけていきたいです。大学時代に身につけるべきこと、というお話では、自分の思考・行動特性を知り、アントレプレナーの思考行動特性を身につける、ということが魅力的でした。（経営学部・経営1年）

　私はある企業（ベンチャー）でインターンシップをしたいと思っています。でも、その企業は半年から一年間の長期的なインターンシップを主としており、また企業の位置が三重であるため休学前提でインターンをしなければならない状況にあります。しかし、私は両親の希望もあって留年は許されず、悩んでいました。でも、今回の講演を聞かせていただいて本当にやりたいなら、自分でいろいろな方法がないか調べて、壁は突破していかないと、インターンで自分を成長させることはできないと思うようになれました。インターンは三年生の時にしたいと考えているので、それまでにいろいろなことを調べようと思います。（経営・経営システム科　1年）

いろいろなアントレプレナーの方の話を知って、社会の問題を自分自身で解決しようとする行動力があることに驚きました。大学生になってから社会貢献にとても興味はありましたが、それを仕事にしようとすると利益の面などで困難が生じるのではないかと思っていました。しかし、HASUNAやI.D.E.AなどNPOでもなんでもない普通の企業でも知恵やアイデア次第では十分可能なのだとわかり考えが変わりました。ETICではインターン生を“期間限定の正社員”と呼んでいるとおっしゃっていましたが、学生を受け入れる側のそういう姿勢があるからこそ学生も自分の可能性に限界を作らず、小室さんのおっしゃる「１２０％理論」が可能になるのだと思いました。（教育人間科学部　人間文化課程１年生）

身近で起こった事件に対して憤りを感じたときに、それを仕事に変える行動力が素晴らしいと思う。ただしこのような社会企業家の提供していることがサービスにとどまってしまっていることが残念だ。国を豊かにするにはサービスともう一つモノが必要である。日本がモノ作りで発展して、それが衰退し、情報化が進んだおかげでやっとサービスに注目が集まった。そして今サービスも飽和状態に近づいている。サービスとモノを融合しない限り、さらなる発展はない。（経営学部経営学科　３年）

株式会社いろどりについてのお話で、地元で働きたくないから東京などで就職するのではなく、地元を魅力的にするために地元を活性化させる事業をするという考えが魅力的だった。「アントレプレナー」＝「起業家」ではなく、「新しい価値を創造する」という捉え方がとても参考になった。就職するためのインターンではなく、「起業家的思考、行動的特性」を身に着けるためのインターンであると改めて認識した。（経営学部　1年）

病児保育サービスの件ですが、実際に私の姉が子供が熱を出した時に仕事を休むことがなかなかできなくて困ったと言っていました。このように困っている親がたくさんいると思うし、このようなサービスを求めている人が必ずいると思います。現代社会の問題点を見つけ出して、それをビジネス化できれば大きな利益が出ると思います。ビジネスで重要なことは、顧客が求めている事を的確に把握して利益が出る仕組みを作ることだと思いました。資生堂のe-ラーニングは、育児休暇はブランクではなくスキルアップできる期間であるという全く新しい発想だと思います。自分で起業する事は難しい人も社内起業ならチャレンジできるのではないでしょうか。(経営学部・国際経営学科１年)

今回は起業家の精神という事で、抽象的な内容ではありましたが、たくさんの具体的な起業家・事業の紹介があり興味深く聞く事が出きました。価値を生み出すという事も耳にした事はあったもののこれも抽象的な事で真剣に考えた事はあまりなかったので「働く事は価値を作り出す事」と今日教えていただいたのは大変に印象が強かったとともに価値に対する見方も少し磨かれたと思います。アルバイトとインターンの差が期待値の有無という説明はとてもしっくり乗るもので、こちらも良い見方・捉え方を今後出来るようになったもので、貴重な知識となりました。（経営学部　会計情報学科　２年生）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

私は正社員５人、バイト５人の私塾でバイトをしています。もちろん丸付けやデータ入力もしますが、今私は中学生向けのプリント作りを任されています。大学は就職のステップ、四年間という長いスパンの中で「使えるやつ」になれるよう、自分の価値を上げられるよう、日々考えていきたいです。時間と価値と行動力について本日学ばせていただきました。（教育人間科学部　人間文化課程１年生）

　1年か2年の間にインターンシップに行って、広い世界を見て自分の価値を変えていくとともに、自分が新たな発想をを生み出していけるように努力したいと思いました。また、「関わる人すべてを幸せにする」社会起業家に感銘を受けたので、社会問題に興味を持って、解決策を考えてみたり、現在その問題の解決を目指している企業やNPO法人についても知っていきたいです。自分の思考・行動特性を吸収するために、起業家の方の著書や、お話に触れたり、おもしろい企業・社会人の方と積極的にコンタクトをとっていきたいと思いました。また、120%理論は日常でも応用できることだと思うので、今日から実践していきたいです。（経営学部・経営1年）

授業スタッフの感想１

今回は起業家の方の話でなく詳しいインターンシップの成功例だったので、具体的なイメージを持てた人が多かっと思います。次のインターン経験者の方の話でもっと興味を持つと思います。個人的には成功例だけでなく失敗も聞きたいですが…

授業スタッフの感想２

今回はETICの方ということで、インターンに興味を持っている人にとってはとてもためになる話であり、またあまり興味のなかった人も少しは興味を持つようになったとアンケートを見て感じました。自分もインターンに興味はありましたが、部活に入っているため無理かなと思っていましたが、四年次でも行けるということで興味を持つようになりました。自分は将来、環境を変えられる人間になりたいと思っています。と言っても具体的には決まっていません。とにかく悪い雰囲気をよい雰囲気にしたい、だからこの授業を大切にして、自分の未来のプランを思い浮かべたいと思います。